

平成28年 9 月定例会 県土整備委員会（付託）  
平成28年10月14日（金）  
〔委員会の概要 企業局関係〕

島田委員長

ただいまから、県土整備委員会を開会いたします。（10時32分）

直ちに、議事に入ります。

これより、企業局関係の審査を行います。

企業局関係の付託議案はありませんが、この際、理事者側から報告事項があれば、これを受けることにいたします。

【報告事項】

なし

黒石企業局長

報告事項はございませんので、よろしく申し上げます。

島田委員長

それでは、これより質疑に入ります。

質疑をどうぞ。

達田委員

1，2点お尋ねをしておきたいと思います。今年、非常に天候が不安定な日が続いたように思うんですけども、昨年と同時期と比べて、太陽光及び四つの水力発電所がどういう状況であったのかお尋ねいたします。

湯浅電力課長

本年と昨年を比べた上半期の発電状況についての御質問でございますが、まず、電力量の状況でございますけれども、4月から9月までの電力量は、2か所の太陽光発電所では計画電力量270万8,000キロワットアワーに対し、実績供給電力量318万6,400キロワットアワーであり、供給率は117.7%でありました。一方、4か所の水力発電所では、予定供給電力量2億1,101万キロワットアワーに対し、実績供給電力量は2億4,829万845キロワットアワーであり、供給率は117.7%でありました。

達田委員

一緒ですか。

湯浅電力課長

はい、一緒でございます。

なお、降雨状況につきましては、本年 4 月から 9 月の降雨状況を見てみますと、長安口ダム上流では 7 月から 8 月に渇水傾向となりまして、平年をやや下回る降雨量となりました。水力発電にとりましては、雨の降り方がよくて、発電実績は予定供給電力量を上回る状況となっております。

次に、昨年度の同時期との比較でございますが、昨年度の 4 月から 9 月までと比較しますと、まず 2 か所の太陽光発電所の昨年度の供給率は 113.9 %で、今年度が 117.7 %であり、3.8 ポイントの増となっております。また、売電収入は昨年度が約 1 億 2,400 万円で、今年度が約 1 億 2,700 万円でありまして、約 300 万円の増となっております。

一方、4 か所の水力発電所の昨年度の供給率は 112.9 %で、今年度が 117.7 %でありまして、4.8 ポイントの増となっております。売電収入につきましては、昨年度が 14 億 1,500 万円で、本年度が約 15 億 3,100 万円であり、約 1 億 1,600 万円の増となっております。

#### 達田委員

天候が非常に不安定だったので、どのような状況かと思ったんですけども、昨年を上回る収益も発電もされているということで安心しました。太陽光につきましては固定価格買取制度でされていると。それからまた、水力につきましては今は総括原価方式で 30 年の 3 月 31 日まで契約をされているということで、四国電力に売電をされているわけですけども、今年からは電力システム改革ということで総括原価方式というのが廃止をされるということで、次の売電の計画、ほかの県の企業局を見てみますと入札方式で行っているというのも見かけますけれども、徳島県の企業局としては次の契約をどのようにされていくんでしょうか。

#### 大塚電力課電気事業担当室長

売電料金についての御質問なんですけど、現在は、委員がおっしゃったように、四国電力と契約をしております。東京都は入札にしておりますと、あと、新潟県が長期の契約が終わりましたので入札ということになっておりますが、他の県ではまだそれぞれ大手の電力会社と契約をしている状況でございますので、今後につきましては、新電力の県内への電力販売状況とか、他の公営電気事業者の対応状況等、情報収集を行いまして、それらのメリット、デメリットを考慮しまして、これから検討してまいりたいと考えております。

#### 達田委員

入札で行うということになりますと、いろんな新電力も研究を相当しないと、中には相当なリスクを負ってしまったというようなところもありますよね。ですから、十分研究をしていただいて、県民に本当によかったと言われるような売電状況を作っていただきたいなと思っておりますので、それをお願いして終わります。

#### 岩佐委員

前回、事前委員会のほうで達田委員からも質問があったんですが、それに関連いたしまして、川口ダム自然エネルギーミュージアムについて幾つか、その後の状況であったり今後の方針ということを探ねたいというふうに思います。事前委員会で、オープン以来の 7 月、8 月の入館者数というのを教えていただいたんですけども、その後、もう一度 7 月、8 月、そしてまた 9 月の入館者数等が出ていれば教えていただきたいと思います。

川真田企業局次長

ただいま川口ダム自然エネルギーミュージアムの入館者数についての御質問を頂いております。

まず、入館者につきましては、7 月が 1,192 名、8 月が 4,547 名、9 月が 1,373 名、それで 10 月は、10 月 10 日現在でございますけど 402 名ということで、トータルが 7,514 名でございます。

岩佐委員

9 月に入って 1,373 人ということで、8 月というのは当然、夏休みということもあったので入館者数が多かったのかなというふうに思う中で、これから通常の子供たちが学校がある時期に、どれだけの入館者数、いろんな人に来てもらうかということが重要になってくるのでないかなと思っているんですけども、今後の入館者数の確保に向けてどのような取組をされているのか教えていただけますか。

川真田企業局次長

岩佐委員から入館者確保についての取組状況についての御質問を頂いております。

まず、広報といたしましては、今後はミュージアムの内容をわかりやすく説明をいたしましたプロモーションビデオを作成する、それに加えまして、新しいしっかりしたパンフレットを作成していきたいというふうに考えております。

また、団体客誘致の取組に関しましては、県土整備部と連携をいたしまして、ミュージアムに加え、長安口ダムや日野谷発電所の見学を含めましたインフラツーリズムというのを企画いたしまして、JR 四国ワープ徳島に働きかけたところ、この秋にツアーが決定したところでございます。

さらに、折しも今日から 3 日間、企業局 60 周年記念事業といたしまして、秋のデジタルアート展を大塚製薬の徳島ワジキ工場野外ステージにおきまして開催する運びとなっておりますのでございます。内容といたしましては、チーム・ラボの、浮遊する、呼応する球体やドローンの LED 飛行ナイトショーなどを行います。ミュージアムもこれに合わせてダムをライトアップするとともに、夜の 8 時まで開場するところでございます。

このように、広報、団体客誘致、またはイベントとも連携をしまして、入館者確保に努めてまいりたいというふうに考えております。

岩佐委員

7 月にできたばかりということもあって、またこの後のそういう周知、PR というのを

しっかりと行っていただきたいと思うんですけども、今、話の中で団体旅行が決定したということもありました。実際にこれまで、この 7 月、8 月、9 月、10 月の中で団体旅行というのが来たのかというところとあわせて、特に小中学生といった、子供たちにもたくさん来てほしいと思うんですけども、これまで遠足等の、実績があるのかどうかお答えいただけたらと思います。

川真田企業局次長

現在までの団体客の利用状況、あるいは遠足の利用状況についての御質問を頂きました。

団体客に関しましては、8 月が 8 件、9 月が 7 件の計 15 件ございまして、遠足ではないんですけど、校外学習での利用が 2 件ございました。

岩佐委員

本当にまだまだオープンして間もないということで、遠足等というのがまだまだ少ないとは思うんですけども、そういう意味で本当にたくさんの子供たちに見てほしいというような思いはあるんですけども、これからそういう学校関係、教育関係の働きかけというのをどのように考えておられますか。

川真田企業局次長

教育機関への働きかけについての御質問を頂いております。

教育機関、これまでも小学校、中学校の校長会に出席をしまして、地元の学校に直接訪問してミュージアムの遠足での活用を依頼したり、また今後は地元に限らず広く学校訪問を行うとともに、先ほどの社会学習を含め、様々な活動に利用していただけるよう働きかけを行っていきたいというふうに考えております。

また、教育機関との働きかけという点でございますけれども、グリーンパワーキッズというのがございまして、人材育成の観点から、経済産業省資源エネルギー庁が主催しておりますグリーンパワーキッズスクールというところにミュージアムが応募しまして、このたび選定の運びとなっております。これは子供たちに太陽光発電やバイオマス発電などの再生可能エネルギーのすばらしさを学んでもらうことを目的に実施されるものでございまして、小学校 5 年、6 年が対象となっております。スクールの内容としては、休日に行われるんですけども、エネルギーの様々な仕組みなどを学んだ後、実際に各発電所を見学して、みんなで未来のエネルギーや未来の暮らしについてアイデアを膨らませて、発表の準備をして、最後は東京の日本科学未来館において資源エネルギー庁職員の前でそのアイデアを披露するというものでございまして、対象 10 名で現在公募をしておるところでございます。

岩佐委員

しっかりと教育機関への働きかけをしていただきたいと思うんですけども、今ちょうど話があったんですけども、グリーンパワーキッズクラブ、10 月 6 日のちょうど徳島新聞に記事も掲載をされていたんですけども、本当にすばらしい取組だなというふうに思っ

おります。最終が東京に行つての活動成果を発表するというようなことなんですけども、定員10名に対しての応募の今の状況って、もしわかればなんですけども。

川真田企業局次長

グリーンパワーキッズの現在の応募状況でございますけども、9名でございます。

岩佐委員

定員10名ということで、9名が決まっているということなんですけども、もっと例えば広報して、たくさんの方に応募をしていただいて、多数の場合は抽選ということなんですけども、定員オーバーするぐらいしっかりとした取組というのを進めていただきたいというふうに思います。

それと、今後そういう遠足等にも力を入れるということなんですけれども、私もちょうど7月のオープンにも参加させていただいて、そのときはたくさんの方もいらっしゃったということもあって、駐車場の確保というのがどういうふうになっているのかなというふうに思います。特に、遠足で来られる場合に大型バスというのがあるんですけれども、大型バスが止められるような駐車場の整備の現状というのはどのようになっていますか。

川真田企業局次長

今、委員のほうから駐車場の整備状況について御質問がございました。

まず、ミュージアムの駐車場に関しましては、御承知のとおり、隣に国道195号が通っておりまして、非常に交通量も多いということでございますので、それを渡っていただくというのは非常に危ないということでございますので、北側にも駐車場があるんですけども、そこを使用せず、南側の少し離れた昔の旧のテニスコートでございますけど、そこを整備し、24台の駐車場を設置しまして、そこに実際の発電所で使用していました水車ランナを展示したり、また、ミュージアムに来ていただく途中に小水力発電所を見ていただいたり、また、本当の川口ダムの堤体、上を通っていただきましてダムを見ていただいたりして、ミュージアムに来ていただくという狙いで駐車場を整備しております。

しかしそれでは、足の悪い方とかすぐにミュージアムを見たい方がおられますので、ミュージアムの下流、東側に最近5台の駐車スペースをきれいに整備したところであります。先ほど委員の言われた遠足等の大型バスにつきましては、ミュージアムの正面で降りていただいて、大型バスについては、先ほど言いました北側の修理工場の横であるとか、あるいはスマート回廊の一つの施設でありますもみじ川温泉であったり、あいあいランド駐車場に待機していただいて、また迎えていただけるということで、大型バスについても対応できる体制を敷いている状況でございます。

岩佐委員

たくさんの方に来てもらうためにも、駐車場の整備、また交通量も、スピードを出すというようなこともあるので、そういう安全面についてもしっかりと配慮いただきたいというふうに思います。

また、あと次に、中の展示物等について幾つかの質問なんですけれども、当然、最初、初めて行かれたときというのは、本当に中にいろんな自然エネルギー、発電の方法の展示であったりとか、また水素エネルギーというのを実際に体験、実験できるという施設もあります。また、お絵かきスマートタウンとか、いろんなロボットとかいった、最先端のそういう技術に触れられるすばらしい施設だなと思うんですけれども、やはり 1 回行ってそれで納得というか、それで終わりじゃなくて、たくさんの方がリピーターとしてきていただくというのが重要なことだというふうに思うんですけれども、そのためにもやはり施設展示物の例えば更新であったりとか、ほかの施設等でもあるんですけども、しばらくたくさんの方に触ってもらうと故障したりすることも考えられます。そのような故障であったりとか展示物の更新というのをどのようにお考えですか。

#### 川真田企業局次長

ただいま委員のほうから展示物の更新、あるいはリピーター確保等について御質問がございました。

まず、委員おっしゃられるように、目新しいものがどんどんなくなっていくということで、その対応をどうしたらいいのかという部分もございます。それで、まず、御承知のとおり、ミュージアムには 65 インチの 4 K モニターという大きなモニターがございますので、コンテンツに関しまして、徳島映画祭出展作品など様々なコンテンツを入手しまして、適宜上映会を開催するというのを考えておりますし、又は目新しい展示物といたしましては、連携しております日本科学未来館や全国科学館連携協議会からも様々な映像やパネル展示物をお借りして展示をするということで対応させていただこうというふうに考えております。さらに、ミュージアムでは、工作教室とか段ボールクラフト、空気砲、水素実験教室、ペットボトルロケット、星空観望会などの様々な催しをして、飽きさせない工夫を行って運営しているところでございます。

それと、1 点、壊れた場合の更新等についてどういうふうな対応をするのかということでございますけれども、適宜、壊れましたら新しいものに順次かえていくという対応をとらせていただこうと思っております。それとまた、新たな環境学習機材も購入していきたいというふうに考えております。

#### 岩佐委員

科学未来館とかとの連携もしているということで、なかなか珍しいような展示物とか、そういうものをどんどん更新していく、そういうハード面での整備というのもそうなんですけれども、先ほどおっしゃられていましたけれども、いろんな実験であったりとか周りの自然環境を含めての体験ツアー等とか、そういうソフト面というのもしっかりと充実をしていっていただきたいというふうに思います。

それと、この自然エネルギーミュージアムが川口ダムのところにあって、本当に周りの環境というのはダム湖であったり川であったり山であったり、そういう自然に囲まれた本当に豊かなそういうところに立地をしているわけなんですけれども、以前に徳島大学の生物資源産業学部の浜野教授という方から魚道の話聞かせていただいたときに、その方から

も一つ提案があって、確かにそうだなと思ったんですけども、自然エネルギーミュージアムということで自然というふうなことがついていることなんですけれども、建物の中にはそういう実験の施設であったり展示物というのはあるんですけども、やはり自然に触れられるというか、そこらに豊かな魚がいたりするので、そういう生物等の展示をすれば那賀町の自然というのを感じていただけるんじゃないかと思うんですけど、そのようなことについて今後検討することはございますか。

川真田企業局次長

今、委員のほうから生物の展示についての御質問がございました。

自然エネルギーのすばらしさを深く理解するためには、地元が誇ります那賀町の豊かな自然について知っていただくということは非常に大切な使命だというふうに考えております。しかし、ミュージアムに関しましては、スペース的にも非常に狭いというところがございますので、先ほど言った生物に関しても、廊下にあります32インチのモニターでありますとか、先ほど申しました65インチの4Kモニター等で、那賀川の豊かな自然体系の生物を映し出すことで皆様に御紹介をさせていただくということを検討してまいりたいというふうに考えております。

岩佐委員

私も行ったときに、限られたスペースの中での展示ということで、若干そういう生物の、例えば水槽を置くとかいうスペースというのは確かに難しいなというふうに思うんですけども、できるだけ自然というものにも触れられるような、感じてもらえるような、そういう運営をしていただきたいというふうに思います。

あと、それと先ほどの遠足というところで今思いついたんですけども、あそこの建物の例えば2階って今どういうふうに利用されているんでしょうか。

川真田企業局次長

建物の2階の利用活用についての御質問でございますけど、元々あそこはダム管理をするための施設でございます。それを1階部分だけああいう形で開放させていただいているということでございまして、執務室として2階は利用しておるという状況でございます。

岩佐委員

2階は執務室ということであるんですけども、先ほどの、例えば遠足などをこれから誘致するとした場合に、やはり子供たちが来て、そこで例えばお弁当を食べるようなスペースというのがあったら、やっぱり時間の使い方であったりとかいうのもあるかと思えます。そういう意味では、建物としては使えなかったとしても、その周りのいろんな体験ツアーであったりとか、そういう中で自然を感じてもらい、また、その中でお弁当を食べてもらえるというような、そういう提案というのにも必要なんじゃないかなというふうに思っておりますので、それもソフト面になるかとは思いますが、そういう取組もまたしていただきたいというふうに思います。

それと、最後になるんですけども、私も今、環境対策特別委員会のほうでいるんですけども、そういう意味で、地球温暖化の防止の観点からも自然エネルギーの普及啓発ということは大変重要なものだというふうに思っております。平成29年の春にできる予定であります、エコみらいとくしまというのがあります。その中でも環境学習ができる、そういう拠点となるわけですけども、企業局がやっているこの自然エネルギーミュージアムとのそういう環境活動の連携というのがやはり必要だと思います。1か所だけじゃなくて、例えば県内のいろんなそういう環境学習ができる拠点というのをリンクさせて回っていくということが重要だと思うんですけども、こういう関係機関との連携ということについてのどのように取り組んでいけますか。

川真田企業局次長

委員から、今、エコみらいとくしまとの連携についての御質問を頂いたところでございます。

マリンピア沖洲にありますエコみらいとくしまにつきましては、これまでも企業局が整備しましたマリンピア沖洲太陽光発電所展望室におきまして、管理運営、広報活動、展示物の整備を委託し、自然エネルギーの普及拡大に努めているところでございます。また、併せまして、とくしま自然エネルギー探検隊の業務を委託しておるところでございます。これは年2回、40名程度の親子を募集し、バスをチャーターいたしまして、企業局が有します水力発電、太陽光発電所といった自然エネルギーの活用の現場を見学した後、驚敷の野外活動センターにおいて、自然エネルギー教室、工作教室などの体験学習を実施することで、子供たちにエネルギーや環境問題に関心を持ってもらう契機とするものとなっております。新たにエコみらいとくしまが環境活動連携拠点となる西新浜町に移転した後においても、連携を継続し、効果的な事業を展開してまいりたいというふうに考えております。

岩佐委員

いろんな関係機関としっかりと連携をして、ここだけじゃなくて県下全域で取り組めるような努力もしていただきたいというふうに思います。これは県民環境部のほうになりますけれども、地球温暖化防止ということについて大きく動き出そうとしている中ですので、これから未来を担う子供たちにしっかりと興味を持っていただけるような、幅広く自然エネルギーの普及につながるような、これからの努力というか、そういう人材育成の拠点として、那賀町のにぎわいの拠点という意味でも、これからも何年か先を見据えてしっかりと取り組んでいただきたいということを要望して終わります。

島田委員長

ほかに質疑はありませんか。

（「なし」と言う者あり）

それでは、これをもって質疑を終わります。

以上で、企業局関係の審査を終わります。

議事の都合により、休憩いたします。（11時01分）